

(人を対象とする看護系研究に関する情報公開)

研究課題名	ロボット支援下膀胱全摘術パスの ERAS 導入後のバリエーション分析から課題を明らかにする
研究の意義・目的	<p>Enhanced Recovery After Surgery (以下 ERAS) は 2002 年に米国で初めて導入された術前後管理方法で、痛みや術後の合併症を最小にするなどの多様なアプローチにより術後の早期回復を目指すプログラムです。また、クリニカルパス (以下パス) とは治療や検査を受けられる患者様の入院中のスケジュールをまとめたものです。当院では年間約 30 件のロボット支援下膀胱全摘術を施行していますが、術後の食事や離床の開始時期を早め、術後の早期回復を目的として、2002 年 2 月から ERAS の導入を行いました。</p> <p>今回、ERAS を導入し 1 年が経過したので、パスの分析を行い、現在の ERAS パスの問題点を明らかにしたいと考えました。この検証によって、今後、安全性の高い術前術後の管理や、入院期間を短縮できることが期待されます。</p>
研究を行う期間	2023 年 4 月倫理委員会承認後～2023 年 11 月 11 日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2022 年 2 月～2023 年 6 月の期間に ロボット支援下膀胱全摘術 ERAS パスを適応した・適応予定の患者様
協力をお願いしたい内容 と研究に使わせていた だく試料・情報等の項 目	<p>術後合併症の有無、入院日数、術後から退院までの日数、バリエーション発生件数、バリエーションの内容のデータを使用させていただきます。バリエーションとは予定退院日より退院が早まったり、遅くなった場合の原因の事です。</p> <p>データは個人が特定できないように加工し、厳重に保管します。</p>
試料・情報の 他機関への 提供	この研究は 14 階病棟泌尿器科で行われます。研究で得られた結果は学会発表のみに使用します。他機関への提供はありません。
この研究を行っている 共同研究機関	共同で研究をしている研究機関はありません。 2023 年 11 月 11 日日本クリニカルパス学会学術集会にて発表致します。
試料・情報を 管理する責任者	代表：大阪公立大学医学部附属病院 14 階病棟 (泌尿器科) 海崎紗綾 共同研究者：伊藤龍司・川口奈緒・南出愛 (看護主任) ・谷口珠美 (看護主任)・波平仁美 (師長)
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。
研究に協力を したくない場合	研究対象になられる方で、データ協力を辞退したい場合、質問がある場合は下記の連絡先までご連絡をお願いします。辞退の意思を示した場合でも患者様の治療や療養に不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 14 階病棟 (泌尿器科) 電話：06-6645-3145 時間：平日 9:00-17:00 対応者：海崎紗綾 対応者が不在の場合は、後日折り返しのご連絡をさせていただきます。